

令和6年度第2回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和6年10月8日(火) 午後2時から4時
- 2 開催場所 浜松市博物館 会議室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--|
| 委員 | 晝馬るみ委員長、山本巖副委員長、花井清孝委員、
松井里華委員、飛田ひさ子委員、村上剛委員
近藤潤子委員、澤根緑委員、中村朋子委員 |
| 博物館 | 浜松市博物館長、岩岡指導主事、鳥居指導主事 |
| 事務局 | 加藤生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長
袴田指導主事、石塚主任、新林 |
| 欠席委員 | 李受眞委員 |
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容
1. 博物館と学校・社会教育施設・協働センター等との連携について
 2. 生涯学習推進大綱の改定について
 3. 地域学校協働活動について
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田、新林
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 博物館視察(博物館長:案内)
- 3 議事
 - (1) 博物館と学校・社会教育施設・協働センター等との連携について

■博物館から、博物館と学校・社会教育施設・協働センター等との連携を説明

■意見・感想・質疑応答

(飛田委員)

長年この浜松に住んでいるが、本日、博物館にきたことで今まで知らなかった浜松の多くの歴史を知ることができた。自分の住む地域の歴史であっても意外と知らないという人は多くいるのではないか。自分の住む地域の歴史を知るとは、郷土愛が深まることにつながることを実感した。

(中村委員)

博物館の企画は土日や夜間に開催している。これは学習意欲のある人や若い人等、より多くの人々が講座・イベントに参加することに大変有効である。

(晝馬委員長)

先ほど館長からあった「博物館が提供する骨太の情報」ということが非常に心に響いた。博物館はアウトリーチによって、地域に出向き、その地域の歴史に関する骨太の情報を提供する取り組みを行っている。自分の地域の歴史を知ること、よりその地域が好きになるきっかけとなるのではないか。仮にその地域を離れたとしても、また戻ってきたときに、地域を大切にしたいという思いへととなり、その思いは地域づくりへと繋がっていく。今日、館長さんのお話を伺って、地域の歴史を知ることには大きな可能性を感じた。

(澤根委員)

小中学生の社会科自由研究の作品展示がとても素晴らしい。子どもたちが地域を知ること、その地域を好きになり、また戻ってきたいと思うようになる。そのような人たちから新たな地域づくりが始まる。

一方で、学習意欲があっても情報収集が得意でない人等は、一步を踏み出せていない方もいると感じる。

(近藤委員)

小学校の校外学習で博物館には大変世話になった。先ほど説明があった「学校移動博物館」「資料貸出し」は素晴らしい事業である。年間の実施件数が少ないように感じる。

(博物館事務局)

学校移動博物館は市内全ての小学校が対象であり、毎年、希望は20～30校程あるが、来館する学校への対応が多数あること、それに伴い実施時期が限られてしまうことで、現在、年間10校程度の開催としている。直近で実施のない学校を優先し満遍なく平等に実施している。

(花井委員)

最近の子どもたちの傾向として、知識はあるが本物にふれる機会や実体験の機会が乏しくなっているということがある。博物館が提供する事業では、本物にふれ、実体験もできる。そこから子供たちに探求心が生まれ、自分で調べ始める子どもでてくるなど深い学びに繋がっていく。本物にふれる機会を提供することは非常に重要である。

(村上委員)

私は、大人になってから浜松に移住してきたが、地域の歴史を知ることができ、また、とてもユニークなイベントを仕掛けている浜松市博物館を知らなかったことに今、ショックを受けている。本日は浜松の歴史がわかり大変勉強になった。地域が博物館と連携することで、地域住民がその地域の歴史を学び、地域の歴史を通して豊かな地域をつくっていくことができるのではないかという可能性を感じることができた。

(2) 生涯学習推進大綱の改定について

■事務局より「浜松市生涯学習に関する意識活動実態調査」結果の報告

■意見・感想、質疑応答

(晝馬委員長)

アンケート調査の特色について説明があった。気づいた点、大綱の中に盛り込んで欲しい要望等、自由意見も含めて発言をお願いしたい。

(山本副委員長)

無作為に 2000 名を抽出したとなっているが、回答をみると居住地と年齢の回答が連動しているがどういった年齢層、また居住地の方に発送したのか。

(事務局)

抽出した年齢までは確認できないが、居住地は概ね人口割で抽出して発送している。

(山本副委員長)

生涯学習をしたきっかけについての問いで、自ら興味をもったから行ったという回答が最も多いとのことだったが、この設問において回答を 1 つのみにした意図はあるか。

(事務局)

自ら興味をもったから生涯学習を行ったケースもあれば、多少興味を持っていたところ友人等から誘われたことがきっかけとなり生涯学習を行ったケース等、様々なケースが考えられる中、生涯学習を行った一番のきっかけを把握したかったためである。そうすることで、なんとなく興味を持っていた方で、友人に誘われたから行ったケースでは、「友人や知人に誘われたから」が一番の回答となり、それを把握することができると考えた。

(山本副委員長)

生涯学習に対していかに興味をもってもらうか、そのためにどう情報提供していくかが重要となってくる。今回の調査結果は、いかに周知していくのか。また、自由記述から生涯学習がそもそもどのようなことなのか、その周知の必要性を感じた。

(事務局)

報告書を市民に告知するとともに、必要な方には報告書をお渡ししていきたい。この調査をもとに生涯学習推進大綱の改定を行うが、改定後の大綱と併せて調査結果を周知していきたい。

(松井委員)

回答してくださった方は、誰もが生涯学習を行っている方々だと予想していたが、調査の中で生涯学習を行っていないと回答する方も多数いたことが意外であった。

協働センター等で実施する講座で人気のあるものは抽選になり、なかなか受講できないといった声がある。開催回数を増やすなど柔軟な対応をお願いしたい。

(村上委員)

自由意見にあったが、高齢者といっても幅広い年齢層の方々がおり、高齢者の中でもそれぞれの年代等のニーズを把握して事業を行っていくことが求められるのではないかと。

(澤根委員)

私は地域で触れ合いサロンを実施しているが、圧倒的に女性の参加率が高く、男性の参加率が低い傾向がある。また、男性を誘っても消極的という現状がある。このような傾向は全市的にも共通していると思われ、男性のニーズの把握とともに、参加しやすい講座やイベントを模索してほしい。

協働センターは、地域の子供からお年寄りまで様々な年齢層の住民が学び集う場として大変優れた施設だと思う。このように思えるのは私自身も、私の子供も幼いころから、公民館・協働センターを利用してきており、大変身近な存在であるためだが、特に今の若者世代に対して周知不足の面が否めないため、一層の周知をお願いしたい。協働センターの利用者が一層増え、協働センターを拠点に生涯学習を通じた地域づくりが進むことに期待している。

(晝馬委員長)

協働センターには、人々が学び集う素晴らしい講座やイベントが多数あり、協働センターを拠点とする意見に私も同感である。

自由意見にあったように高齢になってくると免許の問題等、活動範囲が狭くなるという現状がある。協働センター以外の場所での講座開催のニーズを把握し、ニーズが高いと判断した場合、協働センター以外でも講座やイベントを実施するという選択肢をもつことで、今までの枠にとらわれない多様なプログラムを提供できるのではないかと。協働センターのアウトリーチに期待したい。

(花井委員)

今後改定作業を進めていく大綱は、浜松市の生涯学習を推進するためのものである。しかし浜松市の現状として、生涯学習を行っていないという回答が多いこと、また生涯学習とはそもそも何なのかという意見があることから、今一度、「生涯学習とは」ということの周知をお願いしたい。また、これも自由意見にもあつ

たが「生涯学習が個人や地域にどういったメリットをもたらすか」、この点の周知も徹底していただきたい。

地域づくりの視点、よりよく生きるウェルビーイングの視点を大綱に盛り込んでいただきたい。生涯学習は個人から始まり、仲間づくりに繋がる。そして、学習成果を生かすことで、地域活動や地域づくりに繋がっていくことを市民に伝えていただきたい。まずは個人の幸せのため、豊かに生きるために学ぶが、それが仲間づくりに繋がり、仲間が豊かに生きようになる。それがさらに広がっていくと地域が豊かになっていく。個人の幸せが波及し、皆が幸せになっていく、まさに会議の冒頭で館長がおっしゃったウェルビーイングに繋がるイメージを市民に伝えていただきたい。

(3) 地域学校協働活動について

■事務局より地域学校協働活動について報告

3. 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・ 第 66 回全国社会教育研究大会茨城大会について
- ・ 次回 第 3 回社会教育委員会 12 月予定 <会場：浜松市役所>

4. 閉会